

方針 6 演奏・創造を発展させ、また、運動の理念を受けつぎ発展させる学習・教育をすすめる、21世紀の運動をになうリーダーづくりを計画的にすすめる

〔演奏・創造活動〕

全国合唱講習会は、西日本・石川県金沢市155人、東日本・東京都板橋区127人で行われた。共にふくい・北陸祭典での全国合同曲を講習曲の真ん中において祭典のイメージを膨らませるとともに、西では杓谷恵子氏、東では岩本達明氏を招き、講師推薦曲の合唱も含めて多様な音楽表現、他合唱団の人との交流や協力で作る大合唱の魅力と新鮮さ、可能性、などを学んだ。さらに参加者を増やすこと、事前の準備と祭典曲の練習要素に終わらない合唱の深め方、などが今後の課題となっている。

全国指揮・合唱指導講習会は、長野県松本市あがたの森文化会館で行われた。同会場では21回目を数え、全国18都道府県から72人の参加、声楽講師に杓谷恵子氏、合唱特別講師に里井宏次氏、指揮法特別講師に工藤俊幸氏を迎え、受講者の経験に合わせたコース別指揮法、祭典合同曲を中心とした合唱講座、守屋博之氏による「うたごえ運動の創造活動について」の理論講座、成果発表会等、例年にも増して中身の濃い講習会となった。指揮法講座は合唱団からの積極的な派遣運動で若手の初参加者も多く、二日間に渡るのも効果的である。合唱特別講座は発声法、声の色合い、和声、歌唱法、と多岐に渡る指導で多くを学んだ。指揮法特別講座は歌い手との関係、作品の理解、指揮の基本、などを指揮者の個性に応じて指導され、得るものは大きい。指揮は現場で学ぶ、合唱指揮は常に歌い手とともにあり、新しい挑戦と継続こそが力となる。今後さらに運動理念の学習や、声楽講座のあり方などの検討を進めながら、継続的に受講者の参加と内容を高めていきたい。

2006年日本のうたごえ合唱団が約120人で結成され、北海道のうたごえ祭典 in 岩見沢、日本のうたごえ祭典 in ふくい・北陸祭典 コンサート への出演、名古屋での新春練習会、東京・大阪での練習会、などの活動が展開された。新春練習での松原千振氏（東京混声合唱団指揮者）による合唱指導、浜島康弘氏による講演「うたごえ60周年に向けて思うこと...」なども有意義であり、うたごえ運動の音楽創造の一つを示すと共に、参加団員相互の交流と体験が各地での演奏創造の励みとなり教育的効果も大きい。07年度合唱団の結成も、大阪にて新春練習会が173人の参加で行われて活動が開始されている。

北海道、九州ではブロックとしての合唱講習会が継続してとりくまれ、大阪、東京、静岡、長野などでは協議会の連帯した取り組みとして祭典参加運動や音楽創造で成果を上げている。県・ブロックでの合唱交流会でもうたごえ、学ぶことが位置づけられてきている。その他、新しい音楽家との出会いもつくりながら継続されている関西合唱団の日曜講座、運動づくり、音楽づくりを総合的に学ぶ京都の「学びの会・覚える会」の取り組みにも学ぶところは大きい。また、井上頼豊没後10周年トリビュートコンサートが開かれ、うたごえとしても「トリビュート合唱団」を結成し参加、氏の創造的財産を改めて確認する機会となった。

来年60周年を迎えるうたごえ運動の豊かな経験を受け継ぎ、国内外のすぐれた音楽に学び、創造活動、運動理念の両面での学習教育活動を充実させ、新たなリーダーを生みだしていくことは運動の発展にとって不可欠である。